

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

8月下旬、長野県長寿社会開発センター白馬グループが行った白馬連峰登山口猿倉周辺の美化活動と引き続き行われた就労支援B型

事業所「クロスロード白馬」のメンバーとの交流会が開催された。会長が交代しても、事務担当者が交代しても変わり無く実施される事業は、本当に定着した本物の日常になっている。参加者自らが社会活動に参加して活動する事が大切なのだ。白馬グループの会員の共通した思いだ。

一人一人が自分の居場所を創ってほしいとの願いで話を進めた。国立社会保障・人口問題研究所の2017年の推計数値で今後の日本社会の予測を説明。団塊世代が全員75歳になるのはいつか。女性の

平均寿命が90歳を超えるのはいつか。小学校の「ゼロ自治体」が半数以上を占めるのはいつか。そして自身自身の年齢に10歳・20歳を加えて想像させる。

一人一人が高齢者になると、運動能力が低下する。そこから考えられる社会は、現状の分刻みが当たり前だった社会が崩壊する現実が待ち構えている。限られた時間の中で乗り降りする電車。多くの人が階段で移動

ていけない事など。だからこそ、一つ一つの課題が、自分の課題であり、その社会の中で社会参加の積み重ねで、自分に合った、その場所が必要とされる生き方をしてみませんか。今日は、その第

「己紹介」。地域課題を考え提案するグループミーティングと発表。意欲的な取り組みに、これからの大北地域が楽しみになる。地域の中で、幸せに住み続けたい。それは自らが社会参加に積極的に向き合

い、できなかった事にチャレンジする事だ。そんな現場で出合えることを楽しみにしている。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



回を積み重ねる社会参加活動を待っていてくれる人がいる事が、生きがいとなる